

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

Fiscal Year Ending March, 2026
2Q Financial Results

2025年11月7日
株式会社エフテック
証券コード：7212



「エフテック」で検索
<https://www.fttech.co.jp>

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

3 次期16中計 策定に向けて

Toward Formulating the
Next 16th Medium-Term
Management Plan

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

3 次期16中計 策定に向けて

Toward Formulating the
Next 16th Medium-Term
Management Plan

連結決算概要（前年同期比）



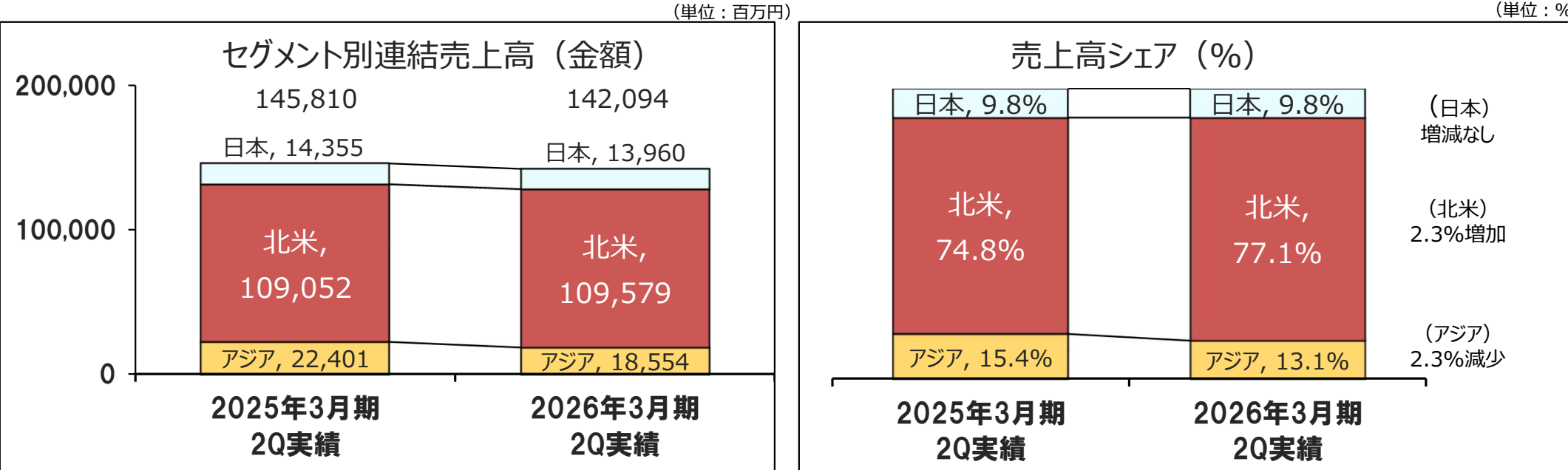
（単位：百万円）

	2025年3月期 2Q実績		2026年3月期 2Q実績		増減	
売上高	145,810	100.0%	142,094	100.0%	▲3,715	▲2.5%
営業利益	▲1,430	▲1.0%	2,848	2.0%	4,279	—
経常利益	▲2,965	▲2.0%	1,824	1.3%	4,789	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲4,860	▲3.3%	299	0.2%	5,159	—
1株利益(円)	▲261.75	—	16.12	—	277.87	—

	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	増減
1 US\$	152.50円	146.09円	▲6.41円
1 CAN\$	111.65円	105.78円	▲5.87円
1 人民元	21.265円	20.350円	▲0.915円

円高による減収、営業利益以降は売価改定及び構造改革等の効果で黒字化

連結売上高（前年同期比）



連結売上高増減

	2025年3月期	2026年3月期	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	14,355	13,960	▲394	▲2.8%	—	▲394	▲2.8%
北米	109,052	109,579	526	0.5%	▲5,271	5,797	5.3%
アジア	22,401	18,554	▲3,846	▲17.2%	▲573	▲3,273	▲14.6%
連結	145,810	142,094	▲3,715	▲2.5%	▲5,844	2,129	1.5%

北米は増収、アジアは中国地域減産の影響により大幅減収

セグメント別営業利益（前年同期比）



（単位：百万円）

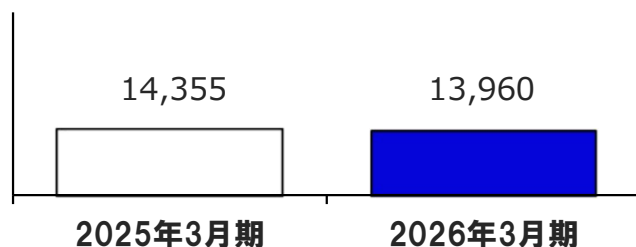
	2025年 3月期 2Q実績	2026年 3月期 2Q実績	増減		為替影響	実質増減	
			金額	増減率(%)		金額	増減率(%)
日本	▲360	▲85	274	—	—	274	—
北米	▲339	2,760	3,099	—	▲146	3,245	—
アジア	▲780	200	981	—	1	979	—
合計	▲1,480	2,874	4,355	—	▲144	4,500	—
調整	50	▲26	▲76	—	—	▲76	—
連結	▲1,430	2,848	4,279	—	▲144	4,424	—

前期比で各セグメントで増益となり、連結で大きく増益となる

セグメント別連結業績（日本）

（単位：百万円）

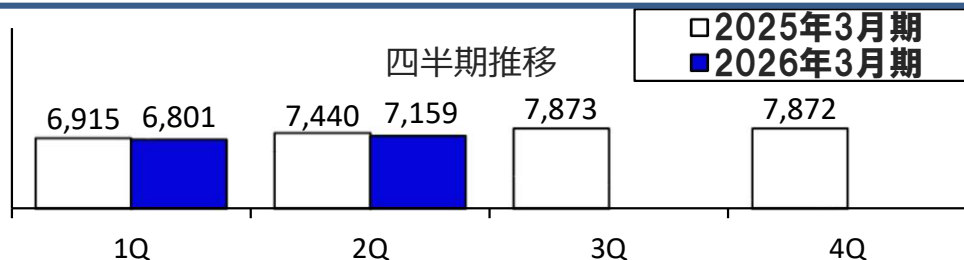
売上高



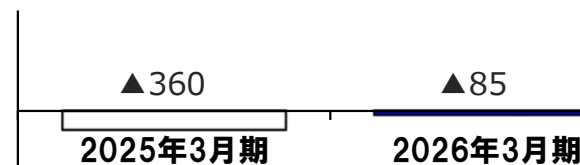
増減額	▲394
増減率	▲2.8%
為替影響	—
実質増減	▲394
実質増減率	▲2.8%

	増減理由	
1	製品売上減少	▲1,387
2	商品売上増加（Gr向け金型設備売上）	1,660
3	技術収入売上減少（ロイヤリティー、開発費、他）	▲70
4	国内子会社売上増加	64
5	内部消去	▲662
	合計	▲394

四半期推移



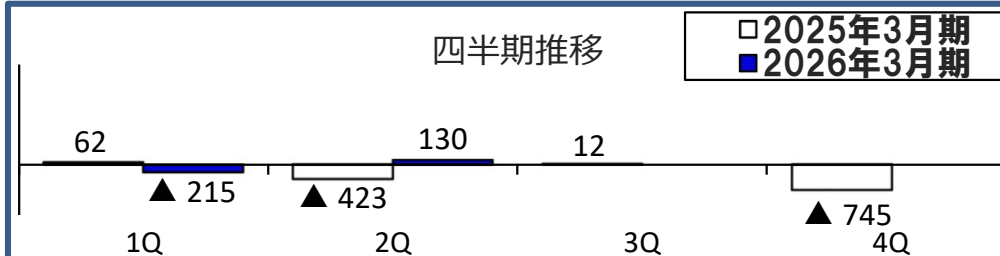
営業利益



増減額	274
増減率	—
為替影響	—
実質増減	274
実質増減率	—

	増減理由	
1	製品売上減少影響	▲374
2	商品売上増加影響	246
3	技術収入売上減少影響	▲34
4	国内子会社増加影響	179
5	販管費減少	257
	合計	274

四半期推移

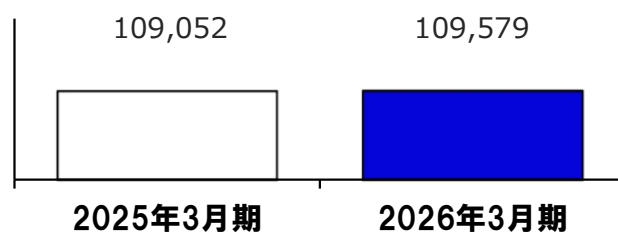


海外Gr向け金型設備売上増加、及び販管費減少により増益

セグメント別連結業績（北米）

（単位：百万円）

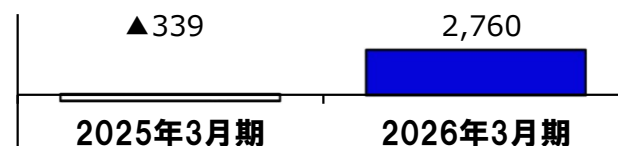
売上高



増減額	526
増減率	0.5%
為替影響	▲5,271
実質増減	5,797
実質増減率	5.3%

	増減理由	
1	製品売上増減	3,802
2	商品売上増減	1,996
3	為替影響（USD 152.50⇒146.09 6.41円高）	▲5,271
	合計	526

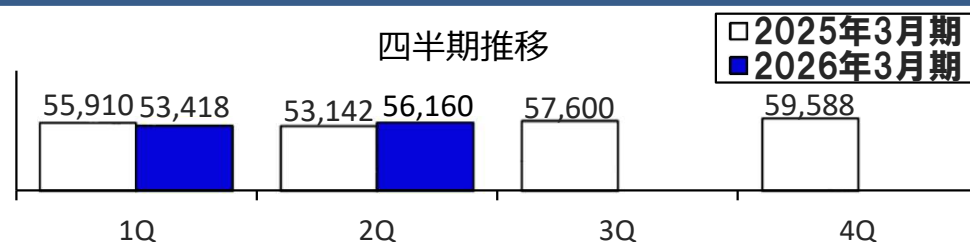
営業利益



増減額	3,099
増減率	—
為替影響	▲146
実質増減	3,245
実質増減率	—

	増減理由	
1	製品売上増減影響	2,185
2	商品売上増減影響	536
3	原価改善	525
4	為替影響	▲146
	合計	3,099

四半期推移



四半期推移



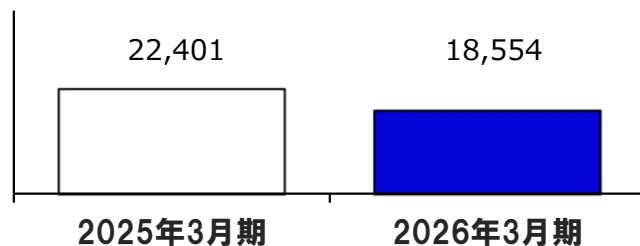
前期の売価改定効果で大きく増益

セグメント別連結業績（アジア）



（単位：百万円）

売上高

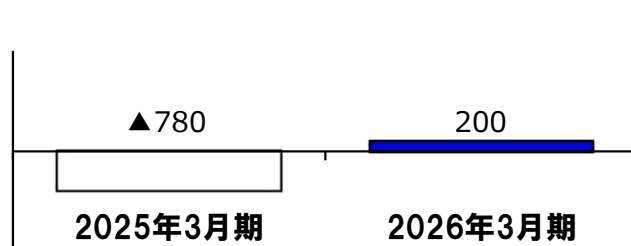


増減額	▲3,846
増減率	▲17.2%
為替影響	▲573
実質増減	▲3,273
実質増減率	▲14.6%

増減理由

	増減理由	
1	中国地域の増減	▲3,673
2	ア大地域の増減	400
3	為替換算影響	▲573
	合計	▲3,846

営業利益



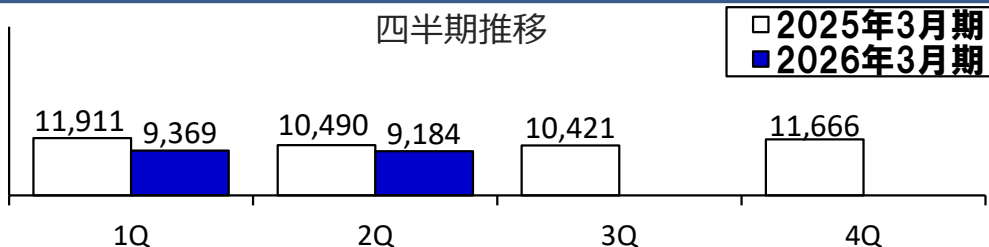
増減額	981
増減率	—
為替影響	1
実質増減	979
実質増減率	—

増減理由

	増減理由	
1	中国 製品売上減少影響	▲975
2	ア大 製品・商品売上増減影響	367
3	中国 固定費圧縮効果	1,588
4	為替影響	1
	合計	981

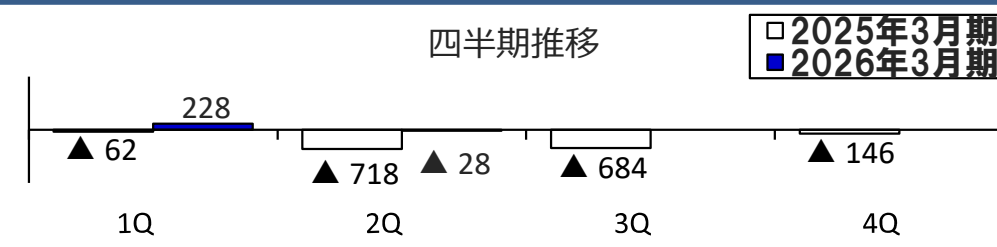
四半期推移

□ 2025年3月期
■ 2026年3月期



四半期推移

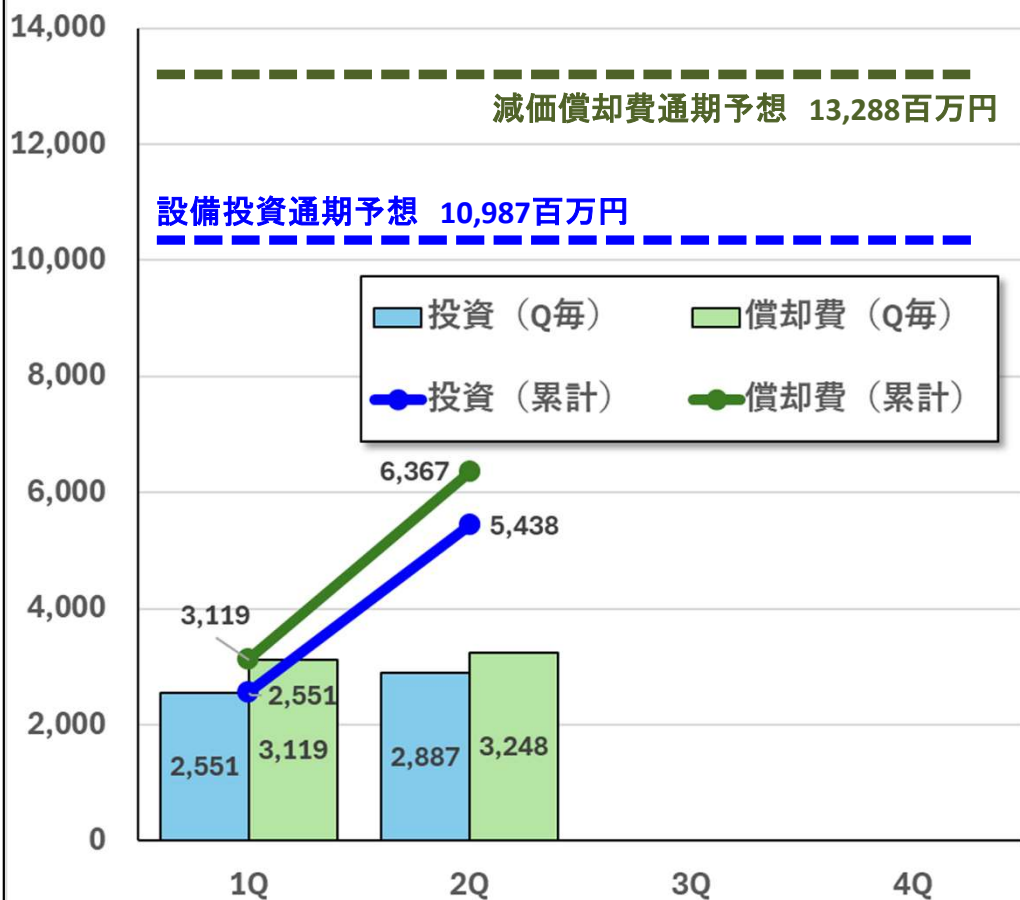
□ 2025年3月期
■ 2026年3月期



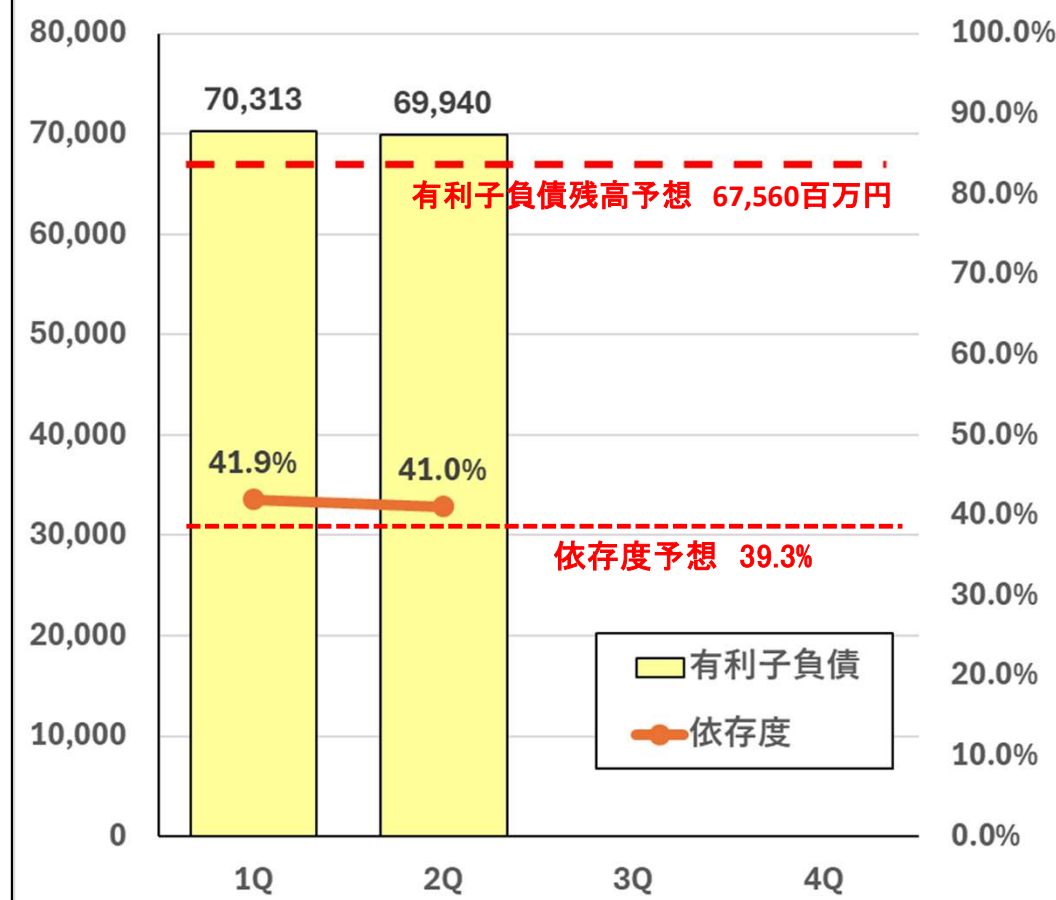
中国は生産台数が減少を続けるも前期の構造改革効果で増益。アジア地域は好転

財務の状況

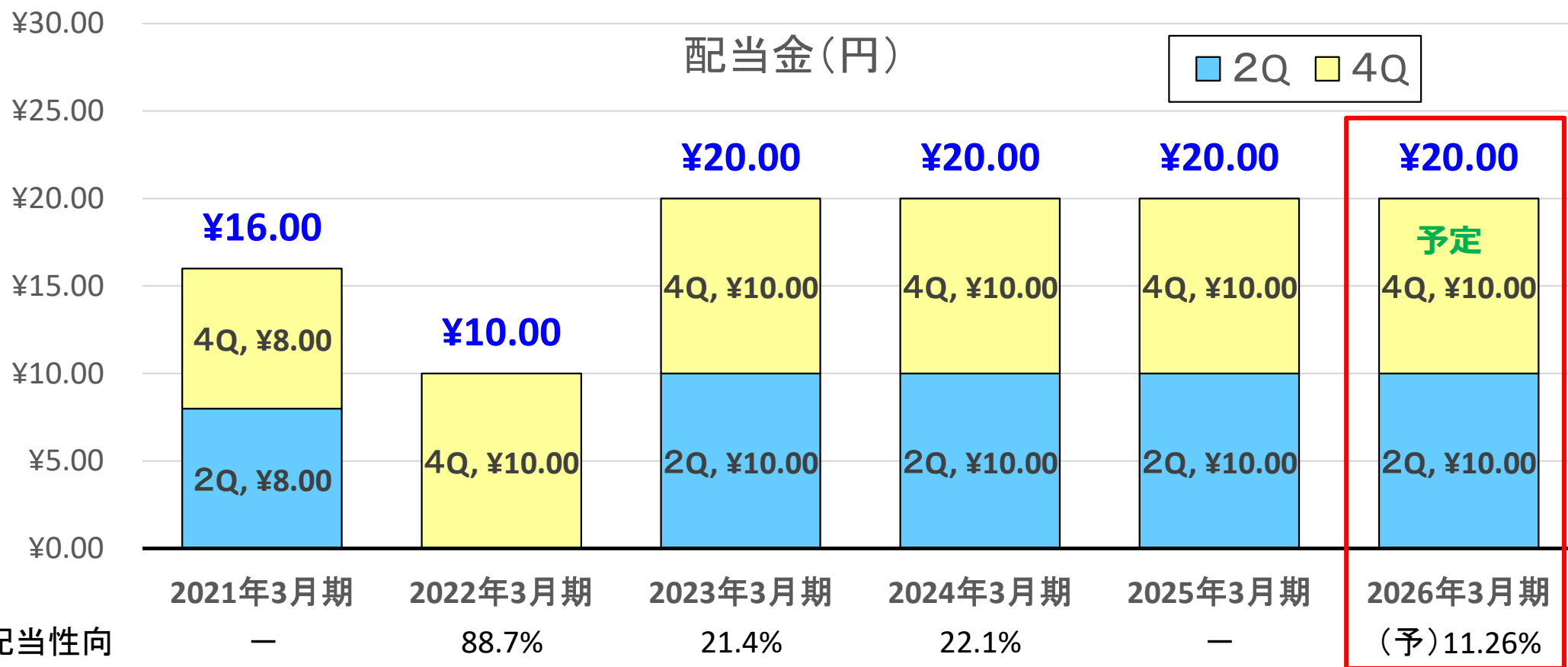
設備投資と減価償却費実績推移



有利子負債残高・依存度推移



配当金の状況



配当方針

当社の利益配分に関する基本方針は、業績に基づく利益還元を基本としています。株主の皆様への還元を重要視しており、財務体質の強化を図りながら利益の状況、将来の事業展開など長期的な視野に立って皆様への利益還元を図ってまいります。

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

3 次期16中計 策定に向けて

Toward Formulating the
Next 16th Medium-Term
Management Plan

第15次中期経営計画 ～概要～

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

稼ぐ力

第15次中期経営計画 ～概要～

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

北米事業の状況

生産状況

(単位：千台)

地域	25年3月期 2Q実績	26年3月期 2Q実績	差異
カナダ	935	891	▲44
アメリカ	799	777	▲22
メキシコ	476	539	+63

生産は計画通りに推進、収益力も着実に回復

収支状況

(単位：百万円)

25年3月期 2Q実績		26年3月期 2Q実績		増減理由
売上高	109,052	売上高	109,579	・得意先の生産増加 ・商品売り上げ増加 ・原価改善効果 ・為替影響
営業利益	▲339	営業利益	2,760	

営業利益は前期比 約31億円増加。引き続き改善施策を推進する

北米事業の状況



2024年度の対応策

プレス

溶接

塗装・組立

品質管理

生産管理

23年比+20%のエキスパート
投入により各領域のステップUP

プレス領域支援
プレス機オペレーター通期支援
金型メンテ支援

溶接領域支援
ライン効率改善・加修作業サポート
仕損費削減

塗装領域支援
スクラップコスト削減

Assy領域支援
ライン効率・自動化UP
スクラップコスト削減

2025年度の対応策

各拠点における改善活動を
継続実施

- ・要員配置の見直し
- ・機械設定値の見直し
- ・作業手順の改善、再教育
- ・ラインレイアウト変更
- ・工場内物流の改善
- ・作業のインライン化
- ・作業工数、タクト見直し
- ・監督者、作業者の教育

など



地域	今後の展開
カナダ	試作レス開発の高度化による受注拡大
アメリカ	2026年1月～エンジニア18名派遣、現地のオペレーター+マネジメント層の教育
メキシコ	省人化を通じた要員配置の最適化による収益拡大（今期69名の要員削減実施済）

日欧米系自動車メーカーの販売不振

2024年度、主要得意先の生産減に合わせた構造・体質改革
“要員数の適正化”と“固定資産価値の減額”を実施

2024年度の構造改革効果

+

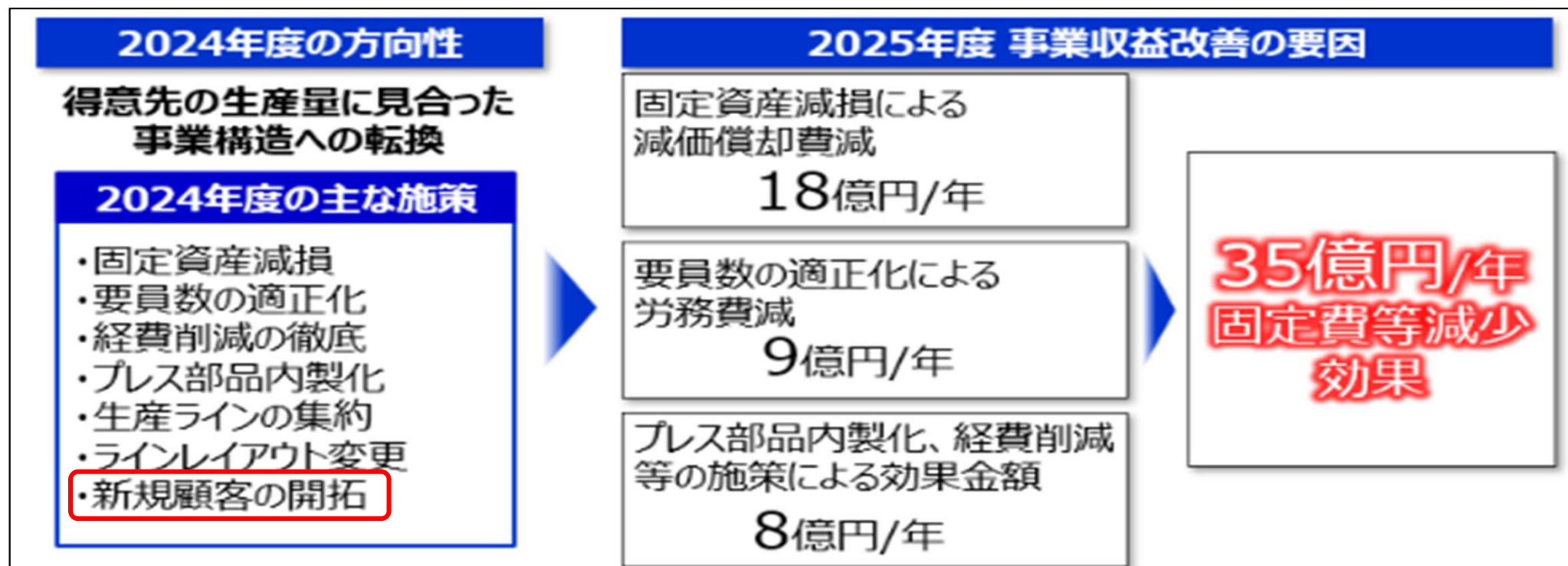
2025年度上期 減産を加味した計画

収支状況

(単位：百万円)

25年3月期	2Q実績	26年3月期	2Q実績	差異	増減理由
売上高	14,622	売上高	10,349	▲4,273	・得意先の生産減 ・固定費圧縮効果
営業利益	▲1,061	営業利益	▲237	+824	・為替影響

下期および来期の生産に対応すべく、更なるコストダウンと収益力強化を図る



◆昨年度に実施した構造改革により、**前期比収益回復**

通期黒字化を目標に活動

◆原価低減でコスト競争力を確保し、**中国資本メーカー 2車種の受注獲得**

第15次中期経営計画 ～概要～

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

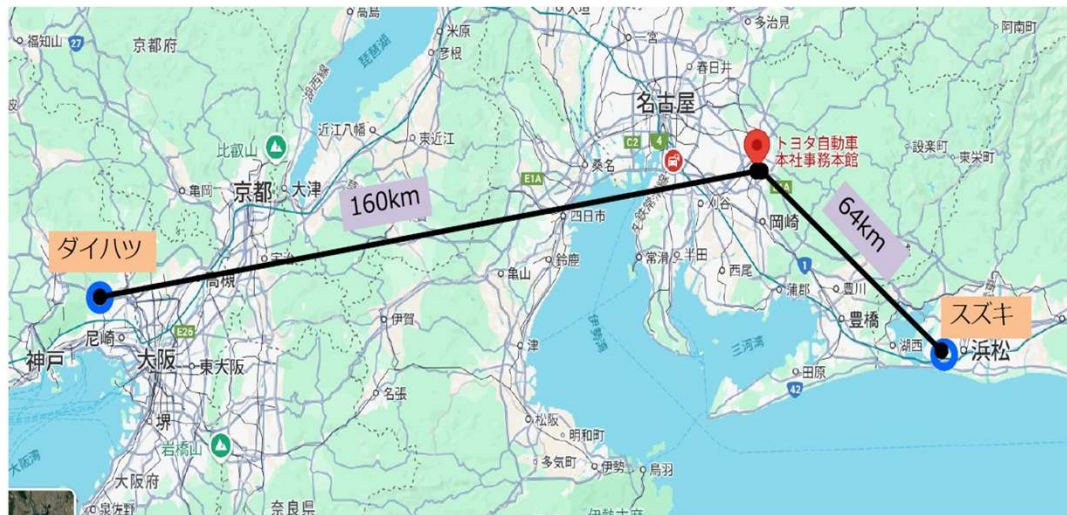
成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

名古屋以西をカバーする営業拠点の新設

“お客様の多様化”と“受注拡大”を図るため、**愛知県安城市に営業拠点を新設**



2025年4月
始動



営業拠点(三河リエゾン)を新設し、東海・関西エリアでの営業体制を強化

上期生産開始・受注情報（2025/4～2025/9）

新規受注

既存メーカー3社から4車種

赤字：新規受注車種

中国新規メーカーから2車種(EV)

青字：生産開始車種

生産開始

ホンダ向け3車種

GM向け2車種

スズキ向け2車種

中国



2車種

日本



3車種

フィリピン



1車種

メキシコ



2車種

インドネシア



2車種

日本



2車種

中国



1車種

メキシコ拠点にて生産開始



生産計画：約5万台/年

売上計画：約17億円/年

インドネシア拠点にて生産開始



生産計画：約6万台/年

売上計画：約7億円/年

将来成長に向けて、各地域のお客様の更なる多様化を目指す

第15次中期経営計画 ～概要～

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上

- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

従業員エンゲージメント向上に向けた施策



2024年4月～

WWT 女性ワーキングチーム

目的

働きやすい環境を整備

活動内容

- ✓ 制度改善
- ✓ 環境改善

メンバー

女性社員6名
(兼任メンバー)



2025年5月～

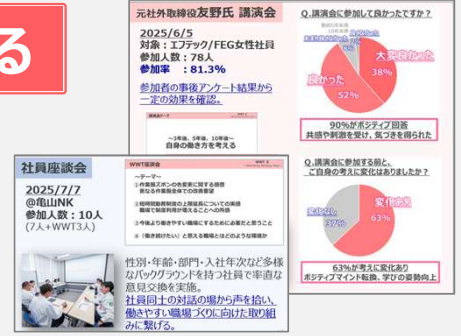
WWT II ウェルビーイングワーキングチーム

全従業員の幸福度を高める

全従業員がさらに活躍できる
環境づくりを進める

専任1名、兼任7名

※WWTから女性3名継続。男性4名/女性1名が新規加入



2024年度 EcoVadis評価結果



	スコア
環境	71
労働と人権	50
倫理	68
責任調達	63
総合点	61

ブロンズメダルを獲得
(世界 22,000社が回答)

『従業員の幸福度向上』を起点として、
好循環サイクルを生み出し、
企業の持続的成長と価値の向上を目指す

対象を全従業員へ拡大した“ウェルビーイングワーキングチーム”へと進化し再始動

ウェルビーイング中長期ロードマップ

	基盤整備期	制度構築期	文化醸成期	定着・拡張期	成果・統合期
年度	2025-2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
内容	現状調査▶課題抽出▶施策立案/実施 ・従業員アンケート(満足度/課題/ニーズ) ・他社交流/情報収集	柔軟勤務制度 健康支援制度 キャリア支援	心理的安全性 対話文化 交流イベント	ウェルビーイング 文化の定着 地域連携活動	Being Happy! 実現
施策	ウェルビーイング定義の社内共有▶Philosophyの社内浸透▶Philosophyの価値観を実感 女性活躍推進 スキルUP/キャリア形成研修 適正な評価制度運用 業務量の適正化 作業環境の改善 コミュニケーション活性化 ・女性向け外部研修 ・管理職向け外部研修 ・キャリア講演会/座談会 ・社員座談会				
対象	国内基盤の強化 ▶ 国内横展開・モデル化 ▶ 海外展開着手 ▶ 海外拠点展開				

Well-being

**F-TECH Philosophy を社内浸透し、
その価値観を体現し実感できる状態が、当社のウェルビーイング定義としています**

※ウェルビーイングとは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念

(引用：厚生労働省「雇用政策研究会報告書 概要」)

第15次中期経営計画 ～概要～

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

サステナビリティ活動の事例

◆埼玉りそな銀行様とのタイアップ企画「フードドライブ」を
本年も実施！今月末に合同贈呈式を開催予定

◆グローバルでのサステナビリティ活動



※昨年度の贈呈式の様子

フィリピン

F.tech R&D
Philippines Inc.



地域の小学校への学用品の寄贈



インドネシア

PT. F.TECH INDONESIA



学用品を施設の子どもに寄贈



アメリカ

F.TECH R&D
NORTH AMERICA INC.



ハリケーン被害の旧裁判所へ寄付



カナダ

DYNA-MIG, A Division of
F&P Mfg., Inc.



地域社会へのフードドライブの支援



インド

India Steel Summit
Private Limited



地域の小学校への文房具寄付



タイ

F-TECH MFG.
(THAILAND) LTD.

高齢者への日用品寄贈



アメリカ

F&P America
Mfg., Inc.



竜巻の被害に遭われた方々への物資寄付



カナダ

F&P Mfg., Inc.



学生と地域への金銭的支援



地域と共に歩む企業として、世界各地で社会貢献活動を展開しています

得意先様からの表彰実績（2025年度上期一覧）

※敬称略



TOYOTA より
TOYOTA Excellent Quality
Performance Award（カナダ）



Mitubishi Motors Thailand より
Excellence Quality with Zero
Defect（タイ）



General Motors より
サービスパーツプラチナ賞（カナダ）



Denso Haryana より
Overall Performance Award
（インド）



General Motors より
2024年度 Quality Award
（メキシコ）



トヨタ紡織インドア より
Best Supplier for QCD
（インド）



日産自動車 より
優良品質 感謝状（日本）



三重県庁 より
みえの働き方改革推進企業
ランク★★★認定（日本）

2025年度上期も数多くの表彰をいただきました

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

3 次期16中計 策定に向けて

Toward Formulating the
Next 16th Medium-Term
Management Plan

競争が激化する自動車業界で生き残り、持続的成長を遂げるために、 第16次中期経営計画を策定中

環境変化

■ 事業地域環境

- ・ 日本の販売台数減少傾向
- ・ トランプ政権政策
- ・ 中国メーカーの台頭

■ EV市場の鈍化

- ・ Te社の販売下振れ
- ・ 量産、開発の遅延又は中止

■ 世界の金融動向

- ・ アメリカ政策金利の利下げ
- ・ アメリカの景気減速

課題

■ 日本

- ・ 事業運営体制の最適化

■ 北米

- ・ 関税分の価格転嫁交渉
- ・ 人員確保

■ 中国・その他アジア

- ・ 更なる固定費の圧縮
- ・ お客様の多様化

■ EVに代わるトップライン挽回

- ・ ICE・HEV車種での販路拡大
- ・ アジアの成長市場開拓

■ 財務体質の健全化

- ・ 資金調達コストの最少化
- ・ 借入スキームの多様化

4つの戦略

■ 変化への適応体制構築

環境変化により目標達成が困難になった場合、リカバリープランを策定し実施することで目標を必達させる体制を構築する

■ 最少経費で最大利益

自社が保有する経営資源（ヒト、モノ、カネ）の最大化と他社とのネットワークの強化を促進する

■ 経営戦略と人財戦略の連動

経営目標の達成に必要な人材の獲得・育成、組織文化の形成、従業員エンゲージメントの向上などを中長期的な視点で戦略的に推進する

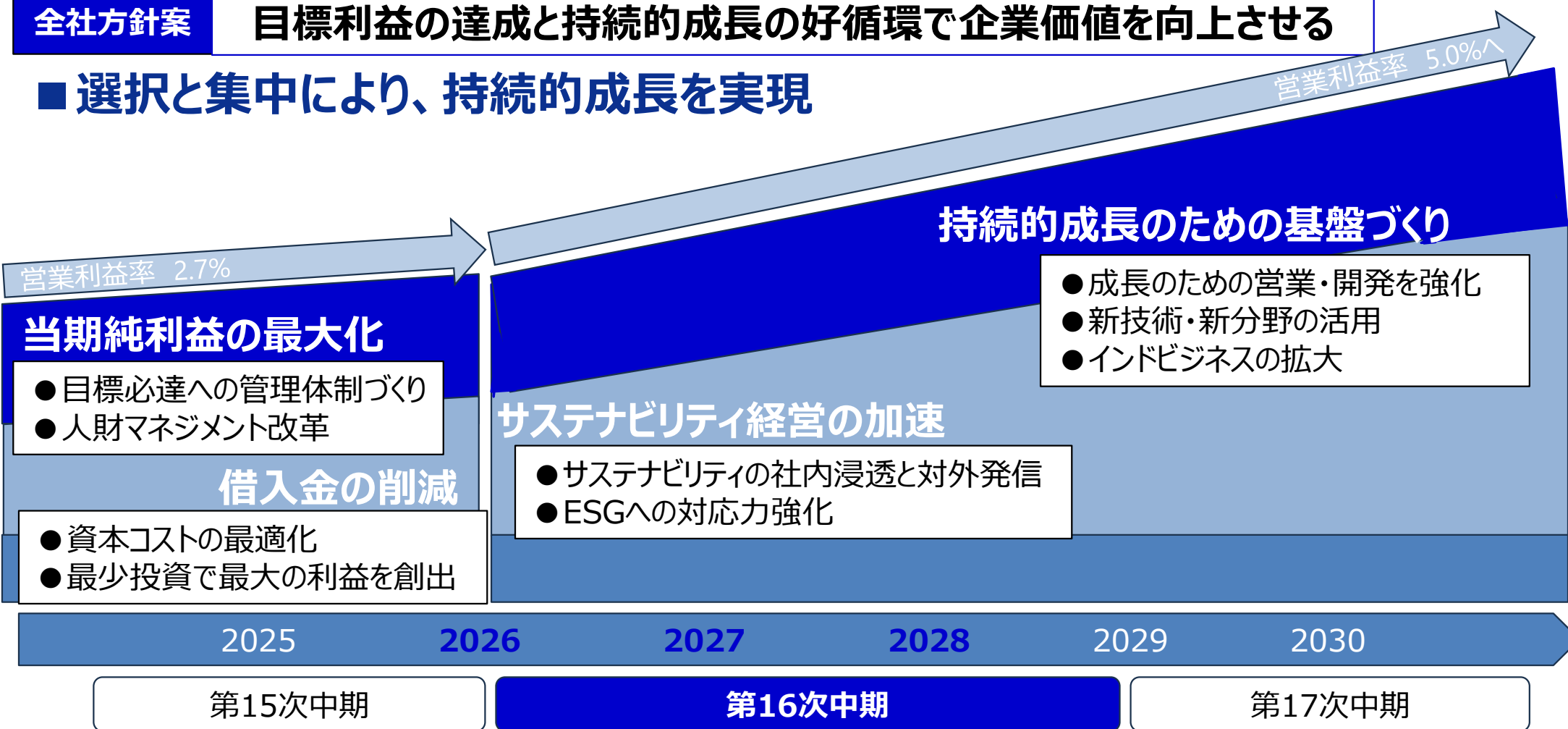
■ 持続的成長

ホンダ以外の受注拡大、新素材・新技術・新分野への挑戦、インドビジネスの拡大

参考：第16次中期経営計画策定に向けたイメージ

全社方針案 目標利益の達成と持続的成長の好循環で企業価値を向上させる

■ 選択と集中により、持続的成長を実現



ご清聴ありがとうございました
Thank you for your attention!



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

The future outlook and earnings forecasts in this document are made based on the information available at the moment, and they include potential risks and uncertainties.

As a result, please bear in mind that actual business performance may substantially differ from the stated future forecasts due to changes in various factors.

IR情報のお問い合わせ、取材お申し込みは

For inquiries on IR information, please contact:

株式会社エフテック 管理本部 総務部/経理部

F-TECH INC. Management Planning Division General Affairs Department/Finance and Accounting Department

代表TEL 0480-85-5211

Mail webmaster@ftech.co.jp

「エフテック」で検索
<https://www.ftech.co.jp>



Appendix

Appendix ～会社概要～

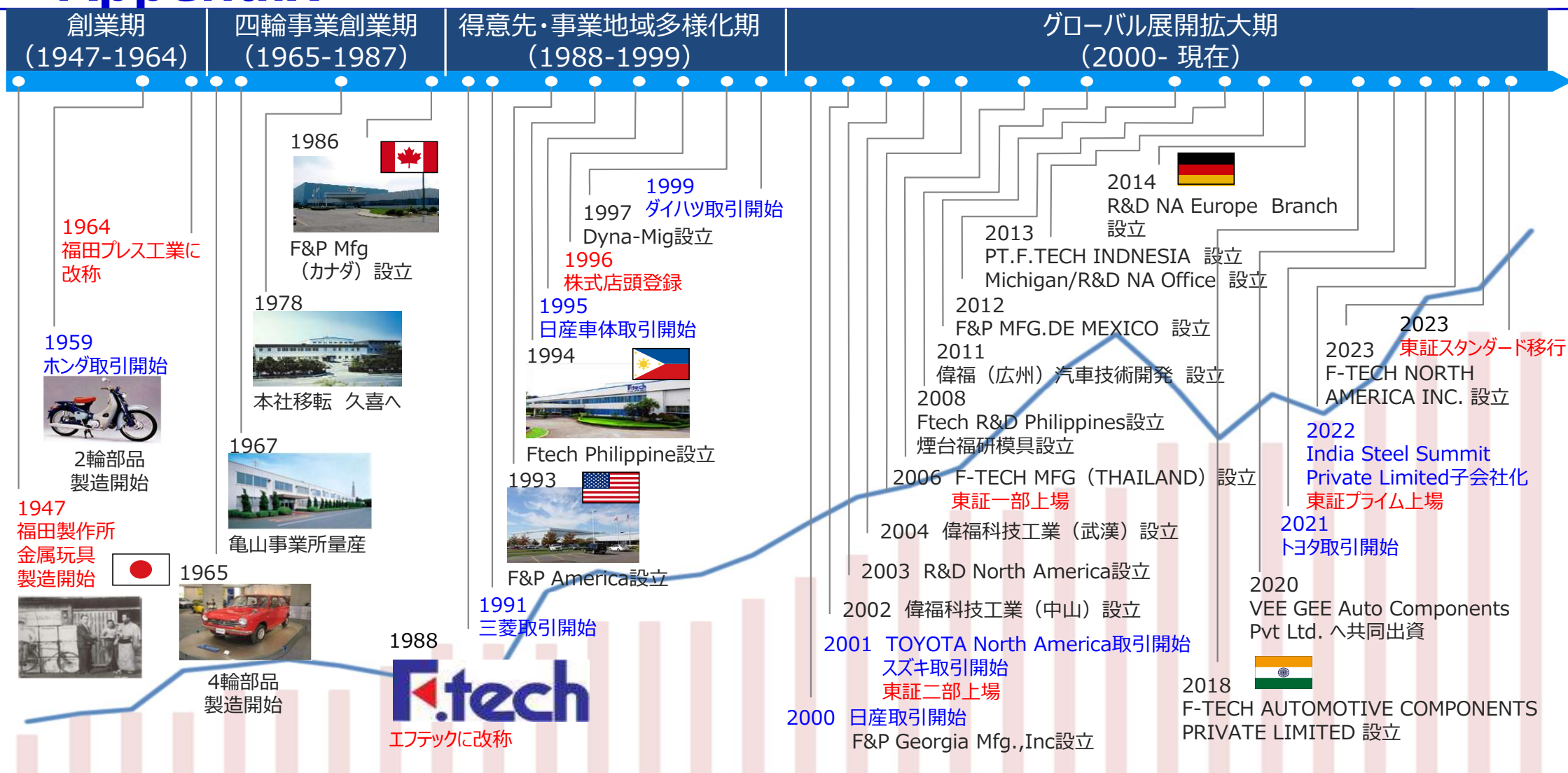


会社名	株式会社エフテック
市場区分	東証スタンダード（7212）
資本金	67.9億円
代表者名	代表取締役社長 福田 祐一
売上高（連結）	3,008億円（2025年3月期）
従業員数（連結）	9,554人（単体：982人） ※単体：国内エフテックのみ（子会社、海外駐在員含まず）
創業年月日	1947年7月1日
本社所在地	〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
主要取引先	本田技研工業株式会社、ゼネラルモーターズ社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、etc.
主要製品	自動車向け足廻りサスペンションアーム、サブフレーム、アクスルビーム、ペダルコントロール等

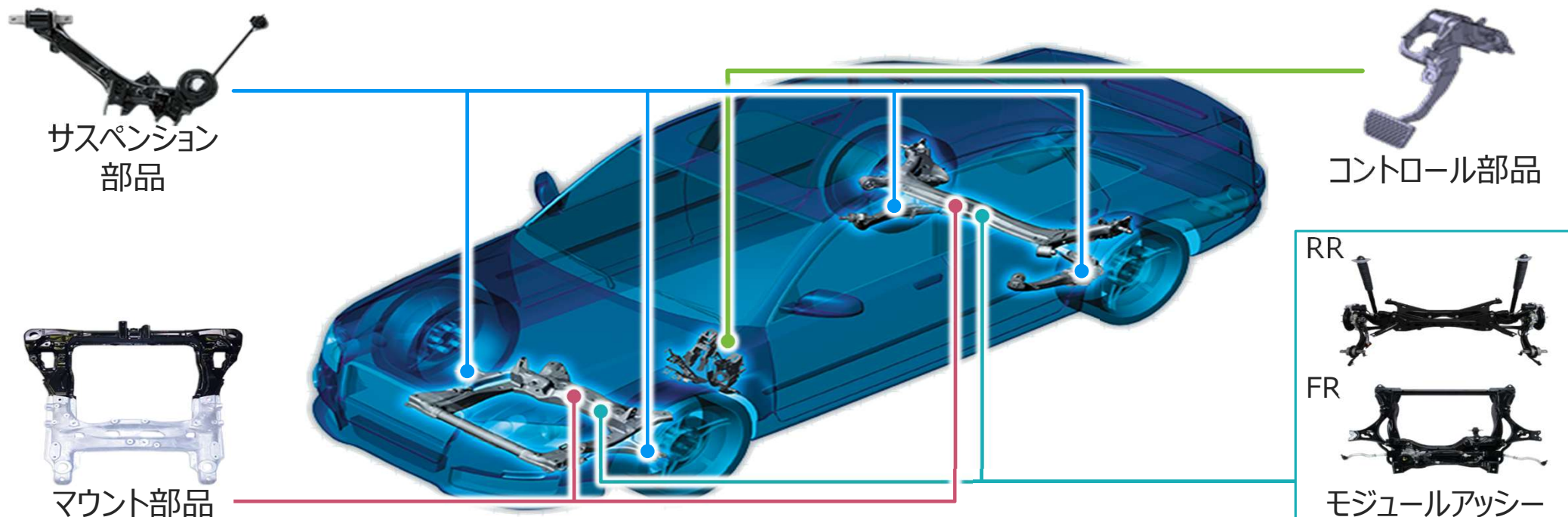


2025年3月末現在

Appendix ～沿革～



Appendix ～当社の四輪部品～



当社の製品は、「走る」・「曲がる」・「止まる」の基本機能を司る、
重要保安部品であり、より高い操縦安定性や乗り心地、
衝突時の安全性を考慮した最適仕様を提案します

Appendix ～当社の業容（シャーシ部品開発・生産）～



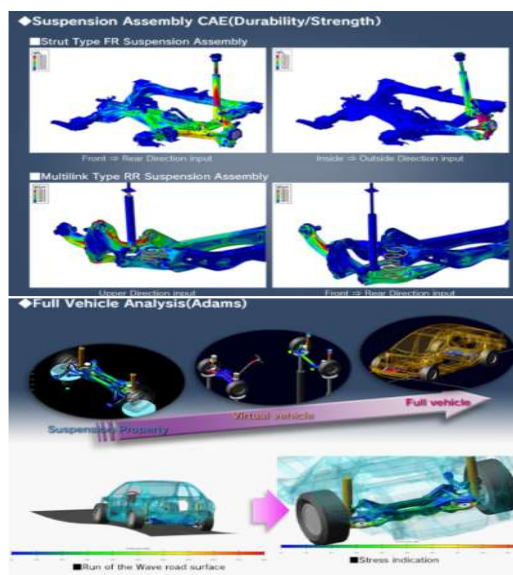
製品開発

塑性成形

接合

塗装

組立



製品の企画開発から量産まで、全工程を独自の一貫加工体制で対応、
圧倒的に競争力の高い製品をスピーディーに提供

Appendix ～当社グループの国内拠点～

●【国内事業所】

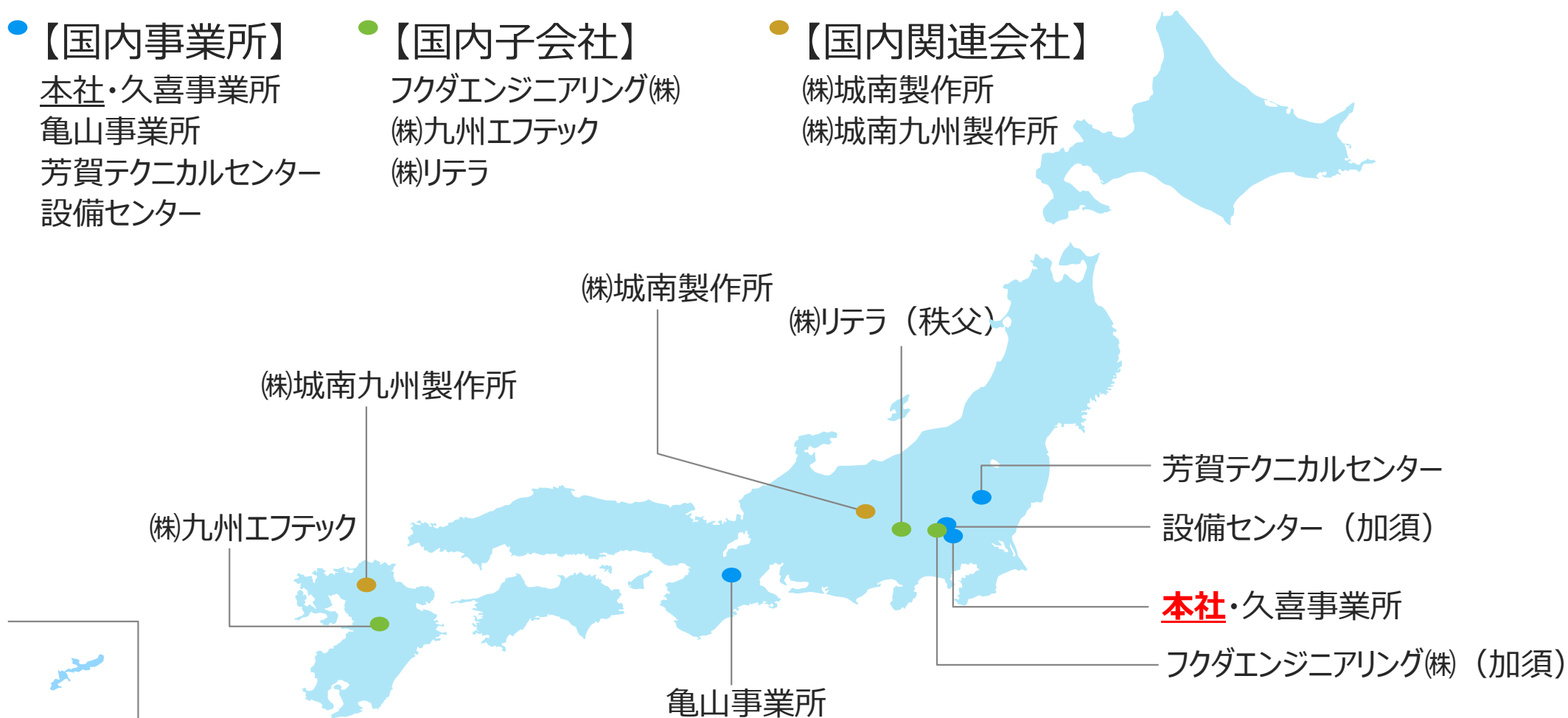
本社・久喜事業所
亀山事業所
芳賀テクニカルセンター
設備センター

●【国内子会社】

フクダエンジニアリング(株)
(株)九州エフテック
(株)リテラ

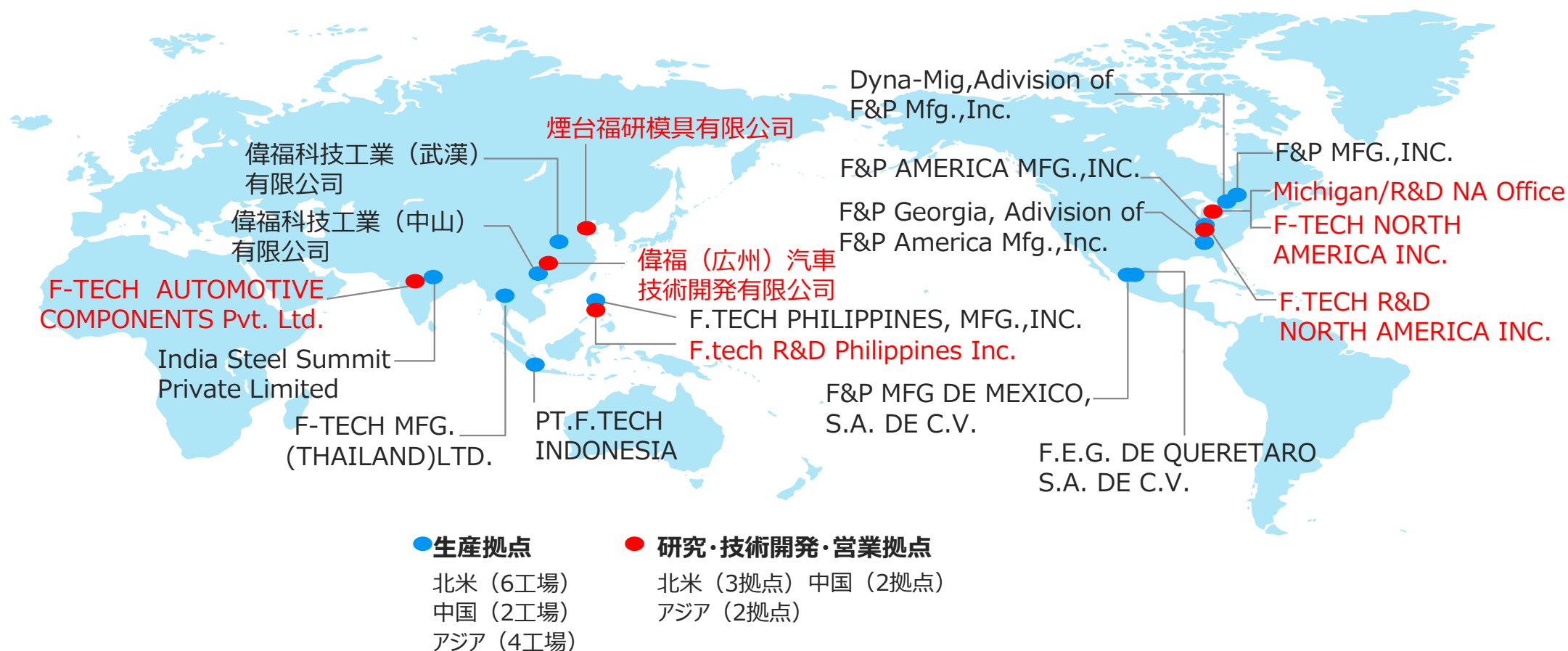
●【国内関連会社】

(株)城南製作所
(株)城南九州製作所



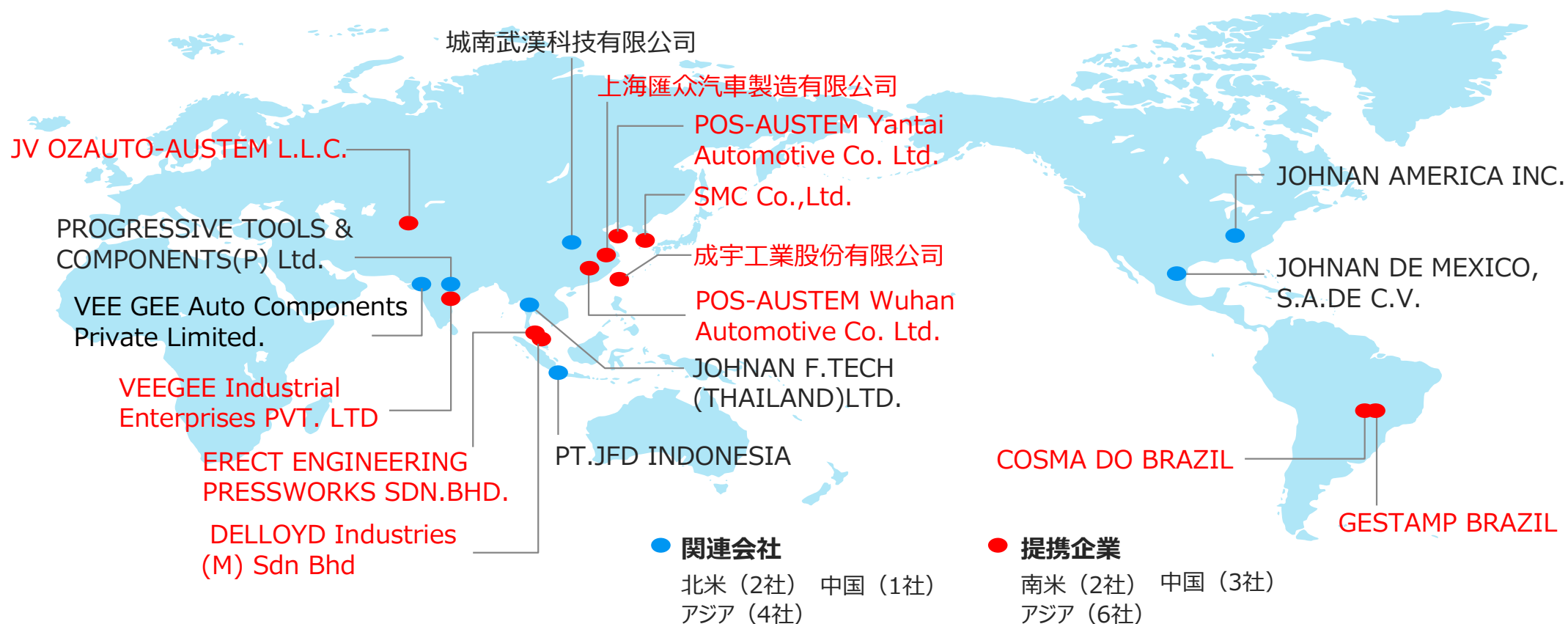
Appendix ～当社グループの海外拠点～

(2025年4月1日時点)



世界8カ国12生産拠点、7研究・技術開発・営業拠点を展開

Appendix ～当社関連会社、技術提携企業～ (2025年4月1日時点)



世界6カ国・1地域での提携関係により、当社製品の世界供給体制を構築